

歴史的文化財を活用した総合的な学習の時間の在り方

～聖南中学校善光寺街道グループが目指す地域を活性化するウォークイベント～

筑北村立
聖南中学校
中村淳志

悩み・光明を見いだした1年目

赴任したばかりで何もわからない中でのスタート。試行錯誤の中で「イベント」という目標が生まれる。



活動の目的が明確になった2年目

新聞社のイベントへの参加で生徒の意識が変化。イベントの計画や街道の学習にのめり込む。



準備

善光寺街道ウォークイベントの挑戦 3年目

【生徒の学び】

- ・協力を依頼する小瀬さん（地域の方）役場観光課への企画案のプレゼンを目指して、3つのチームで企画案を作成。（①）
- ・プレゼンで、内容を認められたことで安心感を得た。また、見直すべき点のアドバイスをもらい、再検討を重ねる。（②）
- ・グループごとに具体的な準備を進める（③）（広報・手形・分担）
- ・同時に街道の学習や解説文作り、解説の練習を進める（④）
- ・文化祭の発表で解説練習。当日に向けて放課後や家庭などで解説の練習を重ねる。



課題設定

協力者にプレゼンしてより良いイベントにしたい

情報収集

アイデアを出し合ったり、調査したりして案をたくさん集める

整理・分析

案を整理して、最も良い案をグループで作成

まとめ・表現

プレゼンで提案して助言をもらう。課題の再設定

当日

おおまかな日程

西条駅集合（はじめの会）→立峠石畳からウォーキング開始
→聖南中学校で昼食休憩・太鼓の発表→青柳宿 解散

- ①西条駅集合、はじめの会 生徒が案内や受付をして参加者を迎えた。当日は33名の参加。
- ②立峠石畳、乱橋宿の解説 石畳が作られた歴史的背景や、乱橋宿の名前の由来などを説明する。
- ③聖南中学校での昼休憩 総合的な学習の成果を参加者に伝えるために、「料理グループ」が考案したたこ焼きを振る舞ったり、「太鼓・篠笛グループ」の演奏をたりして参加者をもてなした。
- ④青柳宿、大切り通しの解説 新聞社のイベントの経験を生かした堂々とした発表に参加者から大きな拍手が寄せられた。
- ⑤大切り通して解散 参加者と記念撮影をし、イベントのアンケートを記入してもらい、イベントを終えた。



振り返り

- ・参加者へのアンケートでは、イベントの歩行速度や休憩場所、トイレなどの要望があり、次年度の課題とすることにした。
- ・生徒の1年間の振り返りでは、歴史的な文化財の解説をもっと上場させたいという声が多く挙がった。参加者を喜ばせる企画も大切だが、村の歴史や魅力をもっと伝えたいという意識が強かった。

第2回イベントでの生徒の成長・文化財の活用目的 4年目

- ・「歴史の探究」より「地域の活性化」に注力した3年間の反省から、知識・技能の獲得に明確な目標を設定。

自在に活用することが可能な技能の獲得を目指す解説

- ・年度当初の活動から、生徒同士が関わり合いながら地域の歴史学習を積み重ねる。
- ・伝える練習を重ね、より理解を深める。協力者にアドバイスをもらい、次の課題を設定。

探究的な学習の良さを理解するためのふれあい

- ・イベントを主催し、文化の解説をして歴史を伝えることでどんな生徒の姿が実現するか。イベントで参加者とふれあったり、解説に対する感想をもらったりすることで、自分の地域を誇りに思い、地域の未来に貢献したいという思いの芽生えが期待できる。

概念的な知識を獲得するためのイベントの反省

- ・次年度のイベントを見据えた反省に丁寧に取り組むことで、文化財を活用して地域を活性化することの意義を考えるきっかけとなる。

地域の歴史的文化財を活用した総合的な時間の在り方

①文化財を広め、文化財を活用して地域を活性化イベント

生徒が「歴史・文化財を学びたい」と思える課題設定は容易ではないと感じた。そこで、文化財を学ぶのではなく、文化財の活用により地域を活性化させるという目的を据えることで探究の良さに気づき、主体的に取り組むことができる。

②村内外の人とのふれあいを通して「ふるさとを愛する心」

本校のグランドデザインに、総合的な学習の目標として「ふるさとを愛する」がある。地域の歴史を学ぶことで、どのように「ふるさとを愛する心」を育てるか。保護者や友達など、身近な存在ではなく、普段関わらない村民や、村外の人と関わる場を設けることで、なかなか気づけないふるさとの魅力に気づき、再確認できる。さらに、歴史や魅力を伝えることで、地域を誇りに思うようになる。地域の歴史を手段として、様々な人と関わる場を設け、ふるさとへの思いを強くできる。

③マルシェで地域との結びつきを強くする可能性

第2回のイベントでは、昼食休憩にあわせて「あずまやマルシェ」を開催した。生徒が地域の飲食店やアクセサリーショップに出店の依頼をし、全校で運営にあたった。この取り組みに地域やPTAが参加の提案をしていて、ウォークイベントが地域を結びつけ、みんなて活性化させるきっかけになる可能性がある。